

2006 年度 土木学会 建設マネジメント委員会 情報交換会
小委員長アンケート結果

建設マネジメント委員会として今後、新たに取り組んだら良いと思われるテーマ

NO.	Keyword	回 答
1	会計法	次の世代のための公共インフラ整備と言った視点での会計法の在りかた等に付いて方向付けが出来るようなものがあればと思います。
2	土木技術者の将来	施工者側から、土木技術者の働き甲斐につながる課題
3	国民からの信頼	社会資本の整備を担う立場から国民の信頼に応えるための現場マネジメントの課題を研究し続けたいと思っています。
4	建設部門の新たな役割	産業構造の変化と建設部門の新たな役割に関する調査研究
5	企業経営	企業経営に関わる理論と実践。現状を打破（意識改革、価値観の転化など）するビジネスモデル。
6	建設業経営	縮小均衡の兆しを感じられる建設業界に貢献できるテーマ。特に建設業経営に関すること。
7	複数年契約	複数年契約実現のための提言（自治体はやりたくてもできない）
8	公民連携	公民連携への取り組み
9	PPP	PPPの推進に向けた取り組み
10	地方分権	地方分権化時代に対応する新しい視点からの「建設プロジェクト構想と事業化」のあるべき姿の研究

11	ファイナンス管理	ファイナンス管理という観点からの、建設(整備)投資と事業運営管理(プロジェクト管理)のシステム研究
12	社会問題への対応	社会問題に対する対応のあり方(時流により発現する社会問題に対し、的確にまたは効率的に調査・研究・施策立案等の対応を研究してはどうか)
13	国際問題	国際問題に対する研究(建設管理委員会発足当時の国際問題研究を再開してはどうか)
14	インフラ評価	インフラに対する評価のあり方(従前の事業評価(B/C)だけではなく、アセットとしての価値や顧客満足度等の視点からの評価のあり方を研究してはどうか)
15	教育	「マネジメント教育研究」のような建設管理の教育に関する小委員会を増やす。
16	少子高齢化	少子高齢、人口減少下の地域社会における社会資本整備のあり方
17	少子高齢化	人口減少高齢社会における建設業のあり方検討(特に、アジア・中東等への海外展開(PPP含む)に必要なスキルと仕掛け、その戦略的対応等) 人口減少高齢社会におけるインフラの更新・撤退戦略のあり方検討(更新・撤退の評価手法と判断基準の確立、更新・撤去・廃棄が容易な設計のあり方等)
18	時間管理概念	公共事業における時間管理概念の実務的導入に向けた検討

研究活動上のご意見、提案など

NO.	Keyword	回 答
1	成果発表方法？	研究成果をどのように発表すべきなのか良く判らない。研究発表会・討論会等の全国大会なのだろうと思いますが、どうもそれでは一過性のものになるのかも言う思いがあります。
2	ジャンルごとの発表会	建マネには多くのジャンルに亘って小委員会がありますが、ジャンル毎に小委員会が集まってここで相互的に啓発できるような発表会・討論会的な集まりがあればと思います。
3	成果のCD化・HP	研究成果のCD化或いはHPへの掲載等のその後の経過は如何でしょうか？
4	建設以外からの知見の収集	研究の効率化という観点から、建設に限らず様々な分野における既往の文献を十分に活用することが重要と思われます。建設関連以外の興味ある知見との出会いは新鮮であり、建設部門における諸問題解決に応用するという観点からの研究活動も進めたいと考えています。
5	外部評価・意見	建設マネジメント研究に対する外部（土木専門外の方）の評価や意見等を拾い上げる場も必要ではないか。
6	外部評価・意見	定期的に土木学会と国土交通省や関連する財団法人・社団法人等との横断的な意見交換を行い、土木学会に期待される、あるいは共同で実施すべき学術・実務的研究のテーマや方向性を提起してもらい、対応可能な小委員会での検討テーマとしたり、新たな小委員会の設置の契機としてはどうか。
7	経営	経営学、経営の実例をいかに建設業界に導入できるかという観点の研究。
8	実証的・実際的研究	観念論や制度論、組織論研究と同じぐらい実証的・実際の研究が重要と考える。つまり、実例の中にこそ重要なマネジメント課題や研究テーマが存在する。マネジメント理論的研究にもマネジメント技術開発研究にも、それらを発見し、問題解決策・課題達成策を研究していくことは重要であるとする。
9	予算	3種委員会への費用配分（現行1種と2種のみ）
10	謝礼・交通費	講演のための講師謝礼や交通費の確保
11	活動予算の自由化	活動予算をもっと自由な形で使えるようにしたほうがよいように思います。全てが手弁当となると、場合によっては活動そのものが不自由に成る可能性があります。費目を印刷費、謝金、通信費、消耗品だけに絞らず、もう少し広い範囲で使えるようになったほうが活動をスムーズに行える場面が多いのではないかと考えています。
12	会議室	学会会議室が予約で一杯なことが多くなってきました。

・ 研究小委員会の研究活動情報を委員会で共有するために取り組んだらよいこと

NO.	Keyword	回 答
1	HP	建設マネのHPに前年度研究成果が掲載されていますが、現在研究中のテーマも掲載しては如何でしょうか？ 各小委員会では各種のアンケートを実施していますが、建設マネのHPでアンケートを受付、集約するシステムは検討可能ですか
2	HP	建設マネジメント委員会のWEB PAGEは一度リニューアルした方がよいと思われます。小委員会での資料は外へ出すことができない(小委員会内での共有)ものもありますが、適宜情報交換会などで共有化を進める方向で考えたいと思います。
3	HP	WEBページのリニューアル。小委員会での資料は外へ出すことができないものもありますが、適宜情報交換会などで共有化を進める。
4	HP	建設マネジメント委員会委員限定のサイトの創設(パスワード発行)
5	HP	小委員会単位でのHP設置と建マネ委員会のHPとの相互リンク
6	形式にこだわらない 情報交換の場	ざっくばらんな情報交換会や小論でも良いから、多彩な研究成果発表機会をやすことが重要と考える。現在は、一定のレベルを維持したり、学会研究員会の役割を形式的に促進しようとしすぎである。(形式的すぎる。)
7	自発性	研究テーマなどはオープンになっているので、必要に応じて自発的に情報収集、意見交換、交流を行えばよい。場など提供しないとやらないという委員は研究者としての資質に欠ける。
8	情報交換会	情報交換会が既存の取組としてあるが、情報交換会の成果をどのように小委員会にフィードバックさせるかを整理しておく必要はないか。(情報が情報交換会の場(参加メンバー)だけで留まっている懸念がある)
9	成果発表義務化	研究報告会への強制的報告(ノルマ化)。
10	成果報告書の自由閲覧化	各小委員会で作成する成果報告書を、PDFファイル等で自由に閲覧できるようにするのの一つの方法と思われます。
11	データベース化	ジャンル毎(大・中・小)の要約版をデータベース化
12	報告会の頻度	やはりこまめに報告会をやることではないでしょうか？ただ単にメールで回覧というのではあまり成果がないと思います。委細面談が一番良い情報共有の方法だと思います。

・研究成果の外部への情報発信として取り組んだら良いと思われること

NO.	Keyword	回 答
1	土木出身者以外とのパネルディスカッション	一番、大きな課題だと思います。外部には無知に基づく誤解が氾濫しているようです。典型的な例がテレビ朝日のニュースステーションのMCだろうと思います。一度、彼なんかをパネル-とかに呼んで討論会を催すようなことは出来ないでしょうか。また、今はフリーの元アナウンサー・福留氏などは公共事業に対する理解者でもあるので彼なんかも一緒に。少しお金が掛かるかも知れませんが？
2	外部・他分野との協働	外部・他分野との協働。Give & Takeのスタンスを取らないと、相手方もとりあげてくれない。
3	他機関への報告	研究メンバーの総意において世に問いたい研究成果の情報発信は重要です。従来の研究発表討論会や研究成果報告会以外の方法として、研究成果を活かしたい機関への成果報告なども考えられます。（過去、研究成果を土工協へ報告した例などがあるように記憶しています。）
4	PR	研究内容や活動などをもっと世間のアピールすべき（マスコミなど）
5	インターネット	今はなんと言ってもインターネットの活用だと思います。ただし我々のようなシロウトが作るのではなく、電通のような宣伝専門のスタッフを交えて世間に建マネの活動を広めるのはどうすればよいかを検討しながら情報を発信していくことを考えていく必要があると思います。
6	成果の配布	WEB等により研究発表・討論会等の取組状況等は発信されているが、興味のある者にしか発信されていない懸念がある。特定の機関（国、自治体、財協団等）にだけでも閲覧用としてテキスト等の無償配布をしたらどうか。（経費の問題はあるが）
7	研究成果公表	土木学会ホームページを活用した一般への研究成果の公表
8	WEB	成果発表会における優良研究に対する表彰とその研究成果のWEB発信
9	発表義務化	研究であるので論文発表などの発信は義務。その場作りをすればよい。
10	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・WEB PAGEによる情報公開 ・シンポジウム ・本の出版 ・全国大会での討論会
11	継続的な情報発信	どんな情報でも良いから、内部メンバー・外部社会へ拘りなく発信し続ける事が重要である。
12	シンポジウム	一般向けのわかりやすいシンポジウムの開催